

植物
防疫
講座

虫害編-51

チャに発生する害虫の生態と防除

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 よろず 万 屋
植物防疫研究部門

よろず 万 屋

ひろし 宏

はじめに

常緑の永年性作物であるチャは、多肥下で栽培されるため、寄生している昆虫類にとって栄養の豊かな良い餌となっている。また年3回から4回の摘採は、食べやすい新芽を次々に提供することになり、こうした点も虫たちに良い餌場を提供していることにつながっている。チャは、寄生する昆虫類やダニ類の種類が非常に多く、チャの害虫として100種余が記録されている。このうち全国の茶園で被害が大きく問題になっている害虫種は、チャノミドリヒメヨコバイ、クワシロカイガラムシ、チャノホソガ、チャハマキ、チャノコカクモンハマキ、チャノキイロアザミウマやカンザワハダニなどが挙げられる。また地域や年によっては、ヨモギエダシヤク、チャトゲコナジラミ、ナガチャコガネやマダラカサハラハムシなども防除が必要な程度に発生することがある。

様々な害虫を効率的かつ効果的に防除するためには、各害虫の生理生態特性や各防除資材の特徴、作用機作等をよく理解すること、各圃場における害虫の発生状況を適宜把握し、適切な防除を行うことがより重要とってくる。そこで、ここでは主要なチャ害虫類の生態、被害や主な防除法などを紹介する。

I チャノミドリヒメヨコバイ
Matsumurasca onukii

チャノミドリヒメヨコバイ (図-1) は、我が国をはじめ中国や台湾など東アジアにおけるチャの主要な害虫の一種である。本種の学名は、*Empoasca onukii* とされてきたが2021年に *Matsumurasca onukii* に種名が変更された。成虫の体長は、約3mm程度で体色は鮮やかな緑色である。成虫で越冬後、4月ごろから新芽の成長に伴って産卵を開始し、主に新芽の茎の表皮下に産卵する。孵化後、幼虫は5齢を経て成虫になる。

本種は、成虫と幼虫共に口針をチャの新芽に突き刺し

て吸汁することにより葉脈の褐変、葉の黄褐変、新芽の生長抑制および新芽枯死を引き起こし (図-2)、チャの収量に多大な被害を及ぼす。新芽における本種の被害は、吸汁する際に消化酵素が入った唾液を葉に注入し、消化酵素が葉の通導組織を破壊することで葉脈の褐変を起こし、さらに吸汁が進むと葉が黄色くなり変形することにより起こると考えられている (BACKUS et al., 2005; YOROZUYA, 2017)。中国本土や台湾においては、本種の加害によって15~50%の経済的損失が生じていると報告されている。製茶品質への被害も大きく、本種の被害を受けたチャ葉から製造した茶は、水色が赤く苦渋味が強



図-1 チャノミドリヒメヨコバイ成虫



図-2 吸汁加害されたチャ新芽

Ecology and Control of Tea Pests. By Hiroshi YOROZUYA
(キーワード: チャ, 主要害虫, 防除, チャノミドリヒメヨコバイ)